

銀賞

頼り・頼られる保全員になるために
豊田合成株式会社 尾西工場
奥川 雷也

父に憧れて保全という仕事をしたかった。それが私の小学生からの夢でした。父は工作機械の保全業務をしており、仕事仲間から頼られている姿や出張から帰ってくるたび、どんな設備を直したかを楽しそうに話してくれました。その話を聞くたびに私は、「将来は父のような沢山の設備を直し頼られる人になりたい」そう思うようになりました。

入社時、私は設備保全に配属され「沢山の設備を直し、父のような頼られる人になるぞ！」と嬉しく思っていました。ですが現実には厳しく、色々な設備の構造や動作、部品の名称、設備が故障した時の異常処置手順など、分からない事だらけで、先輩のあとをついていくのが精一杯でした。自分に自信がなくなり落ち込んでいる時に、ふと父がよく言っていた事を思い出しました。

「一つ一つ焦らず確実に覚え、できることを増やしていけばいいんだ。」

「何も分からないままでは父のような立派な保全員にはなれない」そう思い直した私は、常日頃から設備を綺麗にし、動いている時の状態・音を覚えるように努め、普段と違うところや異常音を早期に発見することができた時には、先輩と一緒に修理を行い、設備の長時間停止や品質不良の防止に繋がり、自身の成長を実感できました。

また、設備の取扱説明書や過去に発生した故障の内容を読むことで、設備トラブルの原因や対処法を学びました。先輩と修理する際は必ずメモを取り、分からない事は先輩にとことん質問して、納得のするまで教えてもらいながら、自分で振り返る事で、少しずつ分かることを増やしていきました。

先輩方に教えてもらったのは保全の知識、技術だけではありません。

「どんな作業を行うにも安全が最優先」と私は教えられ、保全作業は非定常な作業が多い為、設備の中に入る際はロックアウトによる第三者の起動防止、電

気修理の際はブレーカーを切り、テスターで電気が来ていないことを確認する動力遮断を徹底しています。保全作業は危険と隣合わせだと私は感じ、一歩間違えれば重大な災害に繋がり、自分だけでなく職場の仲間や家族にも迷惑をかけてしまうため、作業前は必ずKYを実施し、常に周囲の安全確認と共に、仲間と安全最優先で保全業務を行っています。

半年が経つ頃には、日頃から学んだ経験を活かして少しずつ修理を一人で行なえるようになり、先輩にも任せられとても嬉しく、もっと頑張ろうという気持ちになっていきました。修理を終えると製造の方々から「ありがとう！」と言われ、自分が人の役に立つことができる保全の仕事をやっている良かった、一人で修理ができたという達成感を感じました。

二年目には、後輩が入ってきて少しずつですが、頼られる事が増えてきました。

修理で分からない事など聞かれるようになり、相談も受けるようになりました。初めて人に頼られる立場になり、頼られる喜びを感じる一方、ちゃんと教えられているか、伝わっているか不安でした。

人に頼られる立場になることで、先輩が私に頼られた時も同じ様な気持ちがあったんじゃないかなと

知ることができ、より一層努力し頼ってもらえる人になりたいと思いました。

保全業務に終わりはありません。故障を直すだけではなく、再発を防ぐ為に仲間達と真因を追求し改善を行ったり、今より安全に作業が出来るように考え続ける必要があります。私はこれまで学んだ知識や経験を自分のものにし、そこに自分の気づきや工夫を加え、後輩へ丁寧に伝えていきたいと思います。

そして何より、私の目標は、父のように職場で「仲間を頼り、協力し合える存在」であり、同時に

「仲間からも信頼され、安心して任せてもらえる存在」に成長していくことです。

生産を止めることのなく、常に安全最優先に設備を守り続けられる”頼り・頼ら

れる”保全員を目指し

これからも日々の学びと経験を積み重ねていきます。